



Well-Beingの向上を目指す 加古川市の取組

2024年3月25日

加古川市 企画部 政策企画課

課長 藤田 耕平



本日、お話をさせていただくこと

① これまでの加古川市の取組

- 幹部職員向け研修(R5.2.20)
- OASIS研修(R5.10~R6.2)
- 調査結果の活用

② これからの取組

- 職員の技能向上
- 地域幸福度調査の単独実施
- 「EBPM」的な考え方の浸透



加古川市まちの魅力発信キャラクター かこのちゃん

兵庫県 加古川市について



人口:256,931人
世帯:109,079世帯
総面積:138.48km²
(令和5年4月1日時点)

加古川市の地理的特性

- 一級河川加古川の河口部に位置し自然を満喫できる
- 播磨地域の工場地帯の一部を構成
- 神戸や大阪、姫路に短時間でアクセスできる

加古川ならではの魅力づくり

- 身近な自然を活かした魅力づくり
- 産業誘致
- 駅周辺等の拠点の新たな賑わいづくり



棋士のまち



加古川和牛



かつめし



鶴林寺



高御位山

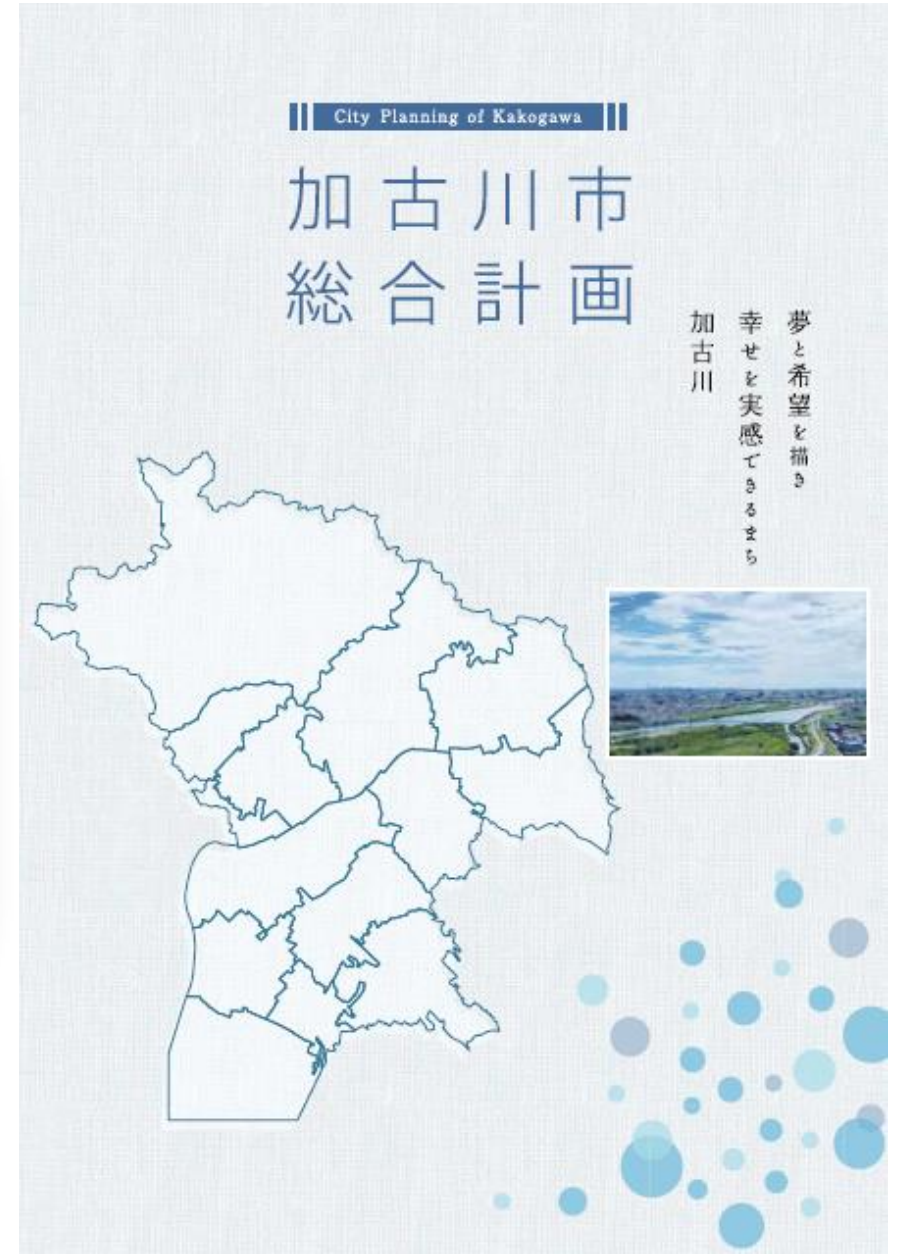


将来の都市像

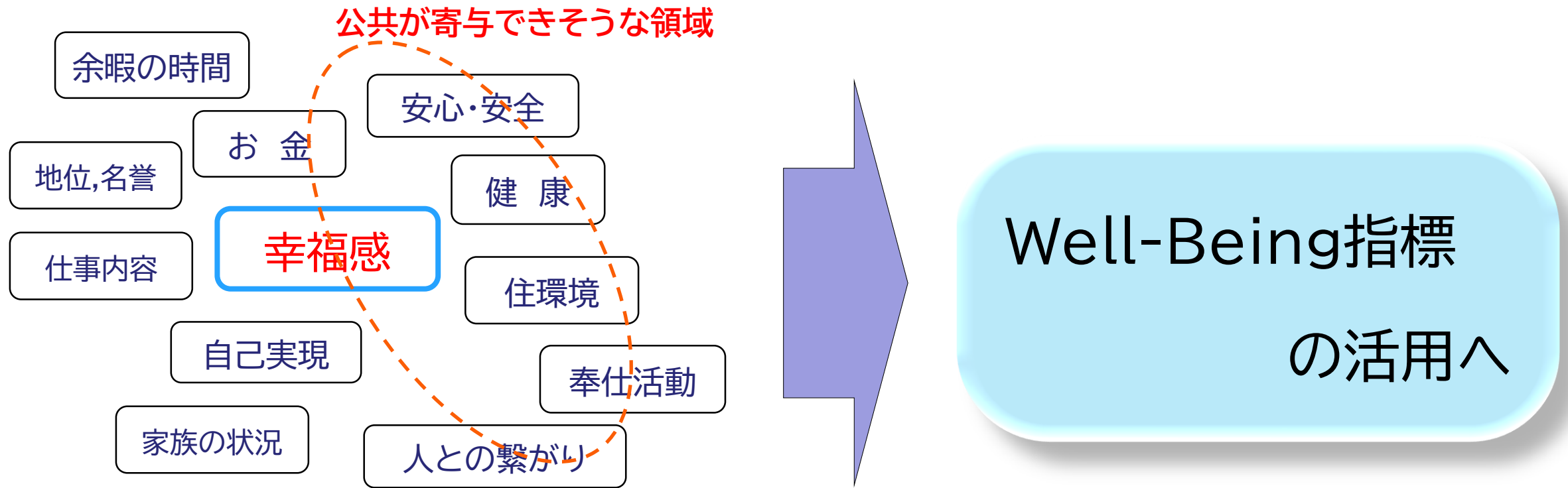
夢と希望を描き

幸せを実感できるまち

加古川



市民が感じる幸福感の向上を目指す(市政運営の理念)



幸福感やそれに関する構成要素を定量的に評価できるかどうかが肝要

取組(1) 幹部職員向け研修

●目的

Well-Being指標の活用に関する
理解促進と知識向上

●対象

幹部職員約80名

●日にち

令和5年2月20日

これからの市の姿勢について、改めて幹部職員と共有し、意識醸成の機会となった。



研修会の様子

取組(2) OASIS研修

●目的

Well-Being指標を活用した施策立案手法の習得

●対象

課長級職員10名 外

●期間

令和5年10月～令和6年2月(全6回)

各班ごとに、ダッシュボードの情報を分析し、設定したペルソナ(市民)の幸福感向上のための取組を検討する中で、ノウハウや考え方を学んだ。



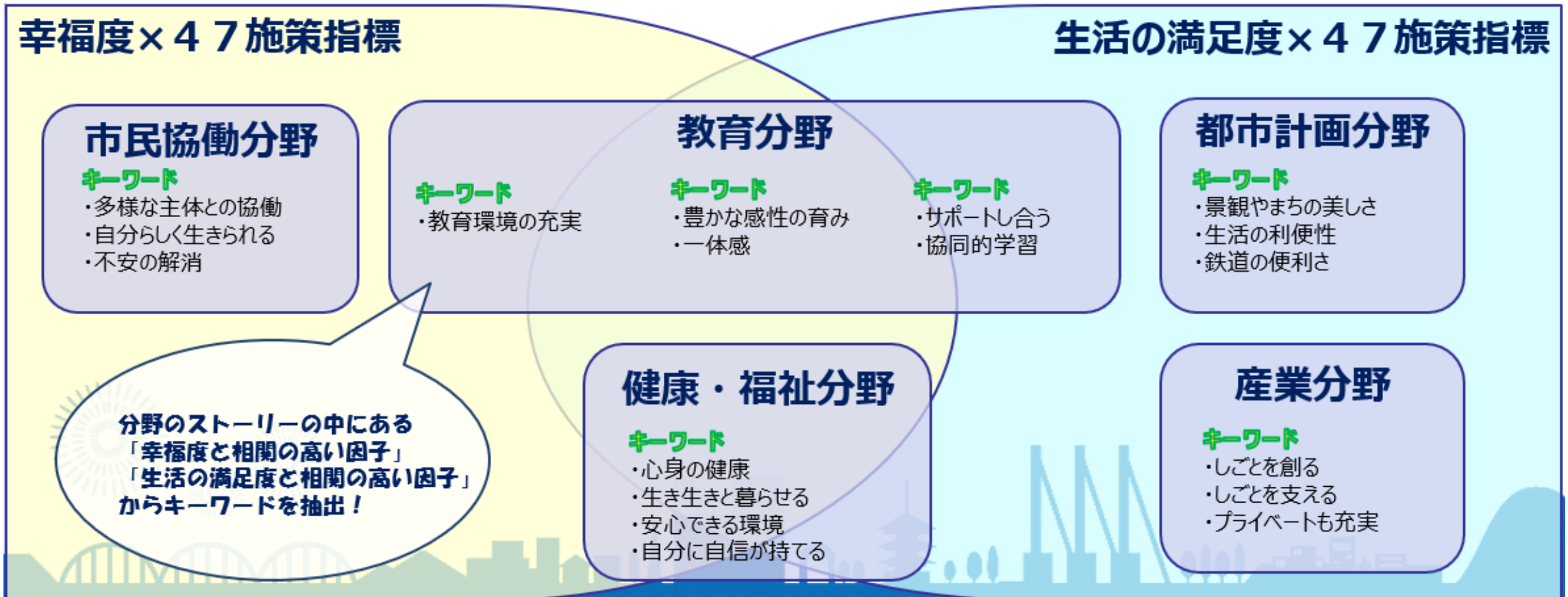
研修会の様子



取組(3) 調査結果の活用①

●令和4年度市調査結果の活用

『幸福度・生活満足度×47施策の満足度』の相関分析から、**市の展開する分野の中で、幸福感や生活の満足感と結びつきの強い分野**を抽出。

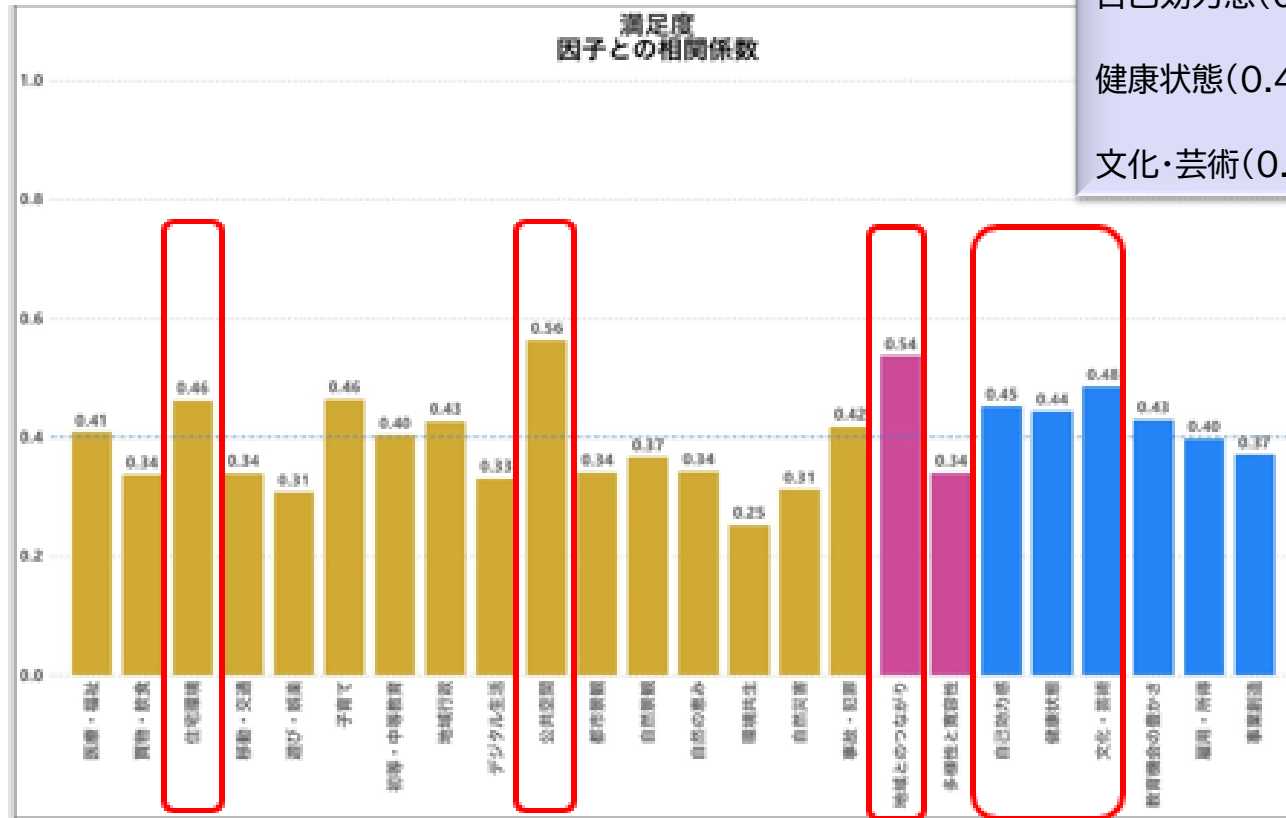
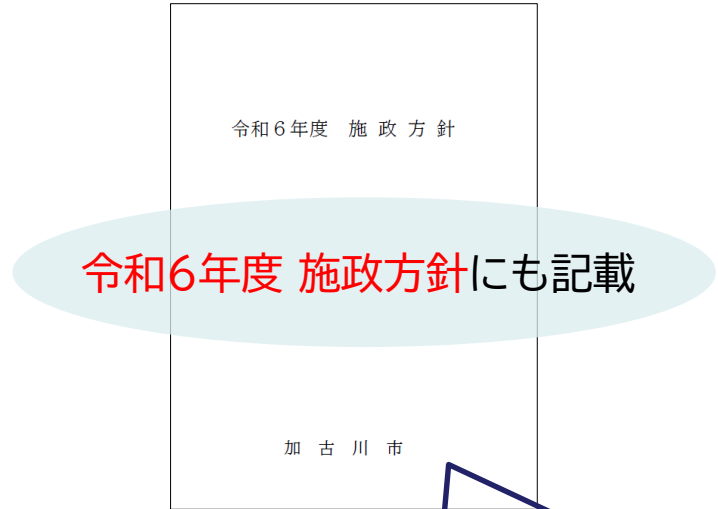


取組(3) 調査結果の活用②

●令和5年度全国調査結果の活用

SCI様の分析ツールから幸福と相関のある(相関係数0.4以上)の分野を確認。

- 住宅環境(0.46)
- 公共空間(0.56)
- 地域とのつながり(0.54)
- 自己効力感(0.45)
- 健康状態(0.44)
- 文化・芸術(0.48)



本市では、従来から継続してきた市民意識調査に加え、昨年度から市民の幸福感や暮らしやすさを測定できるウェルビーイング指標を全国に先駆けて導入しています。その結果から、本市では「健康状況」や「地域とのつながり」、「文化・芸術」、「公共空間」などといった因子が、市民の幸福感と相関が強いことがわかってきました。引き続き、幸福感の測定を続けるとともに、様々な因子との相関関係を分析し、施策に反映していきたいと考えています。



■ OASIS研修(2回目)

- ・ 受講対象の階層を変えて受講することで、Well-Being指標を活用した施策立案手法や考え方の、更なる浸透を図る。

【目的】実務担当者の階層にも考え方を波及 → 施策立案における議論レベルの均衡化

■ 地域幸福度調査を単独で実施 ・ 調査結果を施策立案へ活用

- ・ 令和4・5年度と毎年実施している市民意識調査にWell-Being関連の設問を追加する形で実施してきたが、令和6年度からは、個別の調査として実施

【目的】2つの調査の目的明確化

- 市民意識調査：総合計画の進行管理
- 地域幸福度調査：施策立案・モニタリング

- ・ 従来のPDCAサイクルにおける施策立案スキームの中で、調査分析結果を活用した仕組を構築

【目的】「EBPM」的な考え方を組織に浸透